

令和六年度 東京純心大学 看護学部 看護学科

一般選抜試験（第二回）【国語】 試験問題

試験時間 60分 問題は1～7ページ

注意事項

- ・ 解答は、すべて解答用紙に記入すること。
- ・ 問題用紙は、試験終了後回収する。

受験番号

令和6年2月18日

□ 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。

学校に長期間通わない子どもが増えている。文部科学省の調査によると、不登校の小中学生は昨年度、約24万5000人と過去最多を記録した。前年度より5万人近くも多かった。

病気などを除く理由で年30日以上休むと不登校として①アツカわれる。文科省は、新型コロナウイルスの影響で「学校活動が制限され、②コウユウ関係をうまく築けず、登校意欲が低下した」と分析している。

だが、コロナ禍前から9年連続の増加である。学校という場所にストレスを覚える子どもが増えている長期的な③ケイコウに、(A) 拍車が掛かったと考えるべきだろう。

大事なのは、学校に行きづらさを感じた早い段階で大人が相談に応じることだ。しかし、学校はその役割を十分に果たしているだろうか。

学校や教育委員会を対象にした今回の調査で、不登校の要因に最も多く挙げられたのは、本人の「無気力、不安」で5割を(A)占めた。

ところが、不登校経験者が対象の別の調査では、休みたいと感じ始めたきっかけは「先生との関係」が小学生で最も多かった。中学生でも主な原因の一つだった。

相談した相手は、小中学生とも「先生」より「家族」がはるかに多く、「誰にも相談しなかった」という子どもも少なくなかった。

(I) 学校の理解が不十分で、支援体制が整っていない可能性がある。心のケアを専門とするスクールカウンセラーも複数校を掛け持ちしているケースが大半で、十分に機能していない。人材を確保し、適正に配置することが欠かせない。

ただ、対策が登校の④キョウヨウになるようなことがあってはならない。多様な方法で学びを(イ)保障する仕組みづくりを進める必要がある。

選択肢となるのは、一人一人の事情に応じた学びを⑤テイキョウする不登校特例校や、(B)学齢期を過ぎた人らを受け入れる夜間中

学などだ。

政府は、それぞれ全ての都道府県に設置する方針を(ウ)掲げているが、いずれも3分の1も達成できていない。行政のさらなる取り組みが求められる。

(Ⅱ) 大切なのは、子どもが自分の居場所を見つけ、安心して学べる環境づくりだ。行政と学校、地域が協力し、一人も取り残さない体制を築かなければならない。

(社説「急増する不登校」『毎日新聞』二〇二二年一月二十九日)による)

設問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に直し、(ア)～(ウ)の漢字の読みをひらがなで書きなさい。(送りがなを記す必要はない。)

- |     |          |     |      |     |       |   |       |   |       |
|-----|----------|-----|------|-----|-------|---|-------|---|-------|
| ①   | アツカ(われる) | ②   | コウユウ | ③   | ケイコウ  | ④ | キョウヨウ | ⑤ | テイキョウ |
| (ア) | 占(めた)    | (イ) | 保障   | (ウ) | 掲(げて) |   |       |   |       |

設問二 傍線部(A)(B)の言葉の意味を簡潔に記しなさい。

- (A) 拍車が掛かった      (B) 学齢期

設問三 傍線部(I)を説明した以下の文章について、本文から適切な言葉を抜き出して、空欄a～cに当てはめなさい。(字数指定に従うこと。また句読点やカッコも一字と数える。)

(一)「学校の理解が不十分」であることは、「学校や教育委員会を対象にした今回の調査」と、「不登校経験者が対象の別の調査」における、不登校・休みたくなった要因のズレからうかがい知れる。学校関係者は a (一五字以内) と、子どもの側に原因がある

と捉えているが、経験者たちは不登校に至る b (一五字以内) と捉えている者が多い。

(二)「支援体制が整っていない可能性」が指摘されているが、実際、不登校経験者たちは相談できたとしても家族にであり、だれにも相談できなかった例も多数あった。本来、学校に適正に配置されるべき専門家、つまり c (二〇字以内) の活用が十分でないことが理由の一つとして考えられる。

設問四 傍線部(Ⅱ)に関して、「安心して学べる環境づくり」のためにとられるべき手立てについて、本文をもとに左のようにまとめてみた。本文を参考にして、それぞれの空欄d～fに適切な言葉を書き入れなさい。

「学校」という場がストレス、行きづらい

←

該当する子どもへの対応

周囲で……………

d

教育委員会等は…

e

←

さらに、多様な学びの選択肢の実現

例 居住する都道府県で通えるような

f

↓ 政府の方針が十分に達成されていない

行政の一層の取り組みが必要

□ 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。

日本列島は各地で猛暑に見舞われ、熱中症の救急(ア)搬送が増えている。特に高齢者は体温の調節機能が低下しており、たとえ室内にいても注意が必要だ。

気をつけたいのが、エアコンの設定温度。環境省は2005年から、地球温暖化対策として「クールビズ」を推進、国民に〈28度〉を呼びかけてきたが、この数字は冷房の設定温度ではない。「適正な室温」の目安である。

設定温度⇨実際の室温とは必ずしも限らない。私の自宅でも、猛烈に暑い日中や、西日が差す夕方には、冷房の設定温度より室温が2〜3度高い、なんてことがたまにある。冷房を28度に設定した高齢者が、30度を超えた部屋で熱中症になることもありうるのだ。

しかし、同省が17年、全国の20〜60代に実施した調査(有効回答1342人)では、「28度は設定温度ではなく室温」と正しく理解している人は、わずか32%しかいなかった。

\* \* \*

多くの人の認識が、実は間違い――。そんな健康情報は少なくない。

代表的なところでは、「抗生物質(抗菌薬)は風邪に効く」。風邪のほとんどの原因はウイルスで、細菌を①オサ<sup>エ</sup>える抗菌薬に効果はない。だが、いまだに服用する人や②シ<sup>ョ</sup>ホウする医師が少なくない。国立国際医療研究センター病院の昨年夏の調査では、「間違いである」と正しく回答したのは4人に1人とどまった。

「切り傷や擦り傷は、ガーゼを当てて乾かし、かさぶたができた方が治りが早い」も、誤り。傷口からジクジクと染み出てくる体液には傷を③シ<sup>ュ</sup>ウフクする成分が含まれ、湿った環境を保つ方がよい。この考え方に基づく「(イ)湿潤療法」が今は主流で、専用のばんそうこうも発売されている。

応急処置の常識も変わった。「過呼吸(過換気症候群)になったら、紙袋を口に当てる」は、酸素濃度が低下し過ぎるなどとして推奨されなくなった。「てんかん発作の人に対しては、舌をかまないように口にハンカチなどを詰める」も、窒息の危険性があるなどとして

今では勧められない。

\* \* \*

では、新型コロナウイルスの感染対策はどうか。

2020年の感染拡大初期、国内外の感染症の専門家は、マスクについて「感染・発症した人が他の人にうつさないために使うもので、健康な人が予防のために着用する必要はない」としていた。しかし今では、予防のための着用が推奨され、日本人は見事と言えるほど④ジッセンしている。

ウイルスの感染経路についても、▽ウイルスを触った手指で口を触るなどして広がる「接触感染」は、実はまれである▽飛沫感染<sup>ひまつ</sup>よりもエアロゾル感染（空気感染）が主体——といった実態が分かってきた。

こうなると、飲食店や事業所が講じるべき対策も変わってくる。テーブルやドアノブ、アクリル板などの（ウ）頻繁な消毒よりも、室内の空気の流れを十分に考慮した「換気」を重視しなければならない。

\* \* \*

（A）ことほごさように、医療や健康の情報は、誤解されることもあれば、（以前の常識は今の非常識）になる場合もある。一般人が最新情報を常に把握するのは（B）至難の□□と言えよう。近年は偽の情報（フェイクニュース）がSNSで瞬時に拡散され、

⑤シンギを見極めるのが一層困難になった。

だからこそ、（I）専門家や政府は、新聞やテレビなどメディアへの発表にとどまらず、SNSでの積極的な発信、小中高校での教育など、幅広い年齢層に正しい健康情報を伝えるべきだ。

同時に、私たち国民にも、（II）健康情報を入力・理解・評価・活用する力「ヘルスリテラシー」を養う努力が求められる。

（山口博弥「その健康情報 間違っていない？」『読売新聞』二〇二二年八月一四日、「広角多角」欄）による）



設問四 傍線部（Ⅱ）について、本文に示されている「風邪」「切り傷や擦り傷」の場合を例に、「ヘルスリテラシー」に基づく対応をまとめた以下の説明の空欄 g・h に、適切な言葉を補いなさい。

「風邪」

風邪をひいたときに、gしても効果はないから、医師にそのシヨホウを求めたりしない。

「切り傷や擦り傷」

現在は湿潤療法が主流であり、乾かすのではなく、たとえばhを購入するなどして手当てするとよい。